

# もりおか起業ファンド活用

## ベンチャーの「地場から受注し還元」 シー・ソフト

盛岡市山岸のIT関連のベンチャー企業シー・ソフト(葛巻利将社長)は7月から、もりおか起業ファンド(出資者＝盛岡信用金庫、盛岡市など6組織)の投資資金を活用し、人材強化を開始した。ソフトウェアの開発と

営業ができるスタッフを1人採用し、5人のスタッフ要員を確保。今後さらに数人を採用し、組織体制での経営を目指す。

同社は葛巻社長(63)が2013年4月、地場でIT事業が成り立つ会社を目指し、パッ

ゲージソフトウェアの制作、インターネット関連などの事業を中心に起業した。営業地域は北東北3県と宮城県。葛巻社長は長年、市内の大手情報処理サービス企業に勤務。県内で最初にISO14001(環境マネジメント)認証取得に尽力、情報セキュリティ認証取得などに貢献した。

同社を役職定年後、IT関連の人材派遣会社を経て、起業した。葛巻社長は「県内の多くのIT関連企業の仕

事の大半は、首都圏などに依存。そのため社員が首都圏の企業に派遣員として働く例が後が、少しでも地場のた

野の企業から仕事を受注した。葛巻社長は「当社は、首都圏の企業から仕事を受注する企業でなく、地場企業から受注し、地場に還元する地産地消の企業。小規模だが、開発部門も設置し、質の高い仕事が可能な会社にした。そのためにも、当社の考え方に賛同してくれるスタッフを増やしたい」と展望する。

同社では今年2月、人材育成強化のため、同ファンドに資金支援を申請。審査を経て、6月に300万円の投資が実行された。



もりおか起業ファンド資金の活用を開始したシー・ソフトの葛巻利将社長

遣されている例もある。この流れを変えるには、なかなか難しい。営業地域内で営業を展開。流通、サービス分野の企業から仕事を受注した。葛巻社長は「当社は、首都圏の企業から仕事を受注する企業でなく、地場企業から受注し、地場に還元する地産地消の企業。小規模だが、開発部門も設置し、質の高い仕事が可能な会社にした。そのためにも、当社の考え方に賛同してくれるスタッフを増やしたい」と展望する。

### ニュースフラッシュ

■シー・ソフトに300万円投資 盛岡信用金庫や盛岡市などが出資する「もりおか起業ファンド」は27日、コンピュータシステムの受託開発などを行うシー・ソフト(盛岡市、資本金100万円、葛巻利将代表取締役)に300万円を投資したと発表した。

同社は2013年4月に設立。事業運営が安定していることなどから投資を決定した。同ファンドの投資先企業は6社目。

#### 社名のシーとは

コンピュータの「頭文字C」 通信・人的コミュニケーションの「頭文字C」 貢献の「英単語の頭文字C」 コンピュータ&コミュニケーションで地域貢献したいとの思いで名づけました。

問い合わせはシー・ソフト(電話613-8787)まで。